

# 100円ショップのコスパ

## I テーマ設定の理由

以前100円ショップのチェックペンを利用したことがあり、今まで使っていたスーパーや文房具屋で売っている他のチェックペンと比べるとインクの持ちが短かったように感じたことがあったため、100円ショップは値段が108円で統一されていて安い分使い心地などが悪いのかと気になり調べようと思った。

## II 研究方法

- ・100円ショップについての文献調査
- ・100円ショップで見つきたいいくつかの商品とそれらのスーパーで売っているものとの比較、比較実験をする。
- ・比較、比較実験の結果から100円ショップの商品の良い点、悪い点を考察する。

## III 研究内容

まず、コスパとは…コストパフォーマンスの略で、価格と価値を対比させた度合のことで、価格に対して価値が高い場合「コスパがいい」、逆の場合は「コスパが悪い」という。

### ☆100円ショップの安さの秘密

#### 1. 粗利率が高い

粗利率とは…まず粗利というのは製品の販売額から直接の製造原価を引いたもので粗利率はその割合。高い方が良い。

計算方法→売上総利益÷売上高

100円ショップは商品単価が100円なので、一点当たりの利益は少ないが各社の売り上げに占める粗利率は平均31.9%で一般専門小売店の平均に比べると高い。

一般専門小売店平均…・中小企業 29.1%

・大企業 26.4%

だがこれはあくまでも平均で、利益が10円の商品もあれば60円の商品もある。

つまり、利益率が高い(=原価が安い)商品が売れることで利益率が低い(=原価が高い)商品も100円で売って儲けが出る仕組みになっている。

#### 2. 大量生産、仕入、大量販売

粗利率を高くするためには、製造原価を安く抑えなければならない。つまり、安く大量に仕入れなければならない。

↓主要な仕入れルート

- ① 国内の大手メーカーから仕入れる。
- ② 中小メーカーから直接仕入れる。

③ 国内の専門卸業者から仕入れる。

④ 自社ブランド

① ナショナルブランドと呼ばれる、有名大手メーカーの商品を仕入れる。

→食品に多く、100円ショップ用に量を少なくしていたりする。また、大量の在庫を抱えた大手メーカーの製品を安く仕入れることもある。

② 国内の中小メーカーから100円ショップ用に製造した商品があってそれを直接仕入れるケース。

③ 小規模な100円ショップや地域限定的な100円ショップに多いケース。

日本の地方企業がコンピュータを駆使して商品をデザインし、製造は日本国内であれ中国であれ構わないという姿勢が100円ショップを成り立たせている。

④ ダイソーでは商品の80%が自社ブランドである。しかし、自社製品といっても国産品よりも輸入品のほうが多い。倉庫はあるが工場はなく、国産品も輸入品も中小メーカーの工場に発注して作らせるOEM生産をしている。

OEM生産とは… A、B 2社が契約を結んで、A社がB社に製造委託し、その製品をA社のブランドで販売または使用するという生産方法、その製品をいう。

### 3. 海外での安価な生産

- ・ダイソー：自社ブランドのうち約70%
- ・セリア：輸入品比率50%

100円ショップ向け商品は原価が安いので大量生産がせきないと割に合わない。そのため、機械化がある程度されていて大量に生産ができる中国が安くつく。

### 4. 流通コストが安い

大手の100円ショップの場合、一般小売店と異なって工場から直接店舗に運ばれるか、倉庫にいったんはいるだけで卸売業者を通さない。また、陸あげされた商品はそのまま倉庫に運ばれることで国産品と合わせて各店舗へ送り出される。単品での輸送をしないこともコスト削減になっている。

### 5. 広告宣伝費がほぼゼロ

100円ショップはそのコンセプト自体が宣伝となっているから新規開店持を除いてはほとんど広告を打たない。そして、雑誌等のメディアやネットで取り上げてもらえるので勝手に宣伝してもらえる。

### 6. 社員数が少ない(=人件費の削減)

100円ショップは、売上規模に比べて従業員数と正社員数が極めて少ない。理由は値札をつける手間がかからず、販売や売り上げの計算も楽だからだ。

また、商品知識がほとんど求められないのでパート、アルバイト職員を多く雇用している。

### ◎実験

↓比較する商品とそれぞれの比較の目的

- ・ばんそうこう：防水性を比べる
- ・油吸収パット：油をどれだけ吸収できるか。
- ・ネームペン：インクの持ちを比べる。

- ・修正液：どれだけ速く乾くか比べる。
- ・保冷剤：氷の持ちを比べる。

### ①ばんそうこう

100円ショップ…60枚入りで1枚約**2円**

薬局…380円※定価

差…約**17円**

20枚入りで1枚約**19円**

使用した商品↓  
(100円ショップ)



#### ☆実験

～防水性の比較～

1. 下敷きにそれぞれの絆創膏を貼る。
2. 水中にその下敷きを入れ、どちらがはやくはがれるか比べる。

結果…どちらも3分ほどさらし続けたがはがれなかった。しかし、実験後にはがそうとしたとき、

100円ショップの絆創膏の方がはがれにくかった。

そこで…↓

～関節に付けた際の粘着力の比較～

1. 左手人差し指に縦に張る。
2. 水道で水にさらす。(30秒)

結果…

↓100円ショップ



↓薬局



100円ショップの絆創膏ははがれてしまった。

→隙間から水が入り込んで、そこからどんどん奥まで入り込んでしまった。

また、指に貼る時に薬局のものは伸縮性がよくて指を伸ばした状態で貼っても曲げた時にはがれなかった。

### ②油吸収パット

100円ショップ：20個入りで1個**5円**

スーパー：153円※定価

差…約**5円**

15個入りで1個約**10円**

使用した商品↓  
(100円ショップ)



#### ☆実験

1. 200mlの油を用意する。
2. 油にパットを浸す。
3. 油が垂れないようになるまで持ち上げて待つ。
4. 残量と重さを比べる。

結果…100円ショップ：もともと**-78g** 200ml→約100ml  
約**-100ml**

スーパー：もともと**-104g** 200ml→約70ml  
約**-130ml**

⇒スーパーのほうが多く吸収した。

(スーパー)



だが、吸収した量と値段でみると100円ショップのもののほうがコスパがいい。  
また、100円ショップのものは油に沈めた時ゴボゴボと空気を出しながら油を吸っていたが、スーパーのものは空気も出さずに入れたとたんすぐ吸収していた。

### ③修正液

100円ショップ：2本入りで1本**50円**  
スーパー：500円（税抜き）※定価 差…**450円**  
1本入り1本**500円**

使用した商品↓  
(100円ショップ)

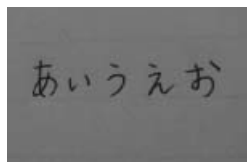
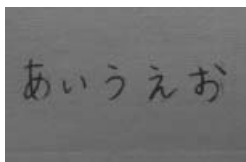


### ☆実験

～消えやすさを比べる（印刷文字と手書きの文字）～

↓印刷文字

↓手書きの文字



(薬局)



1. 100円ショップのものもスーパーのものもどちらも重ね塗りはせずに全体が覆われるように塗る。

結果…・手書きの文字

100円ショップ：文字の黒色が透けている部分があった。  
文字が消えていても形がういていた。

スーパー：文字はすべて完全に消えていたが形が浮かんでいた。

・印刷文字

100円ショップ：文字の黒色が透けている部分があった。  
スーパー：ほぼすべて消えていた。

また、100円ショップのものとはスーパーのものとの仕上がりを比べると、100円ショップのものは白色の絵の具を塗ったようになり、スーパーのものでは塗った面に光沢があった。

⇒そこで100円ショップのものも完全に消えるまで重ね塗りをした。

完全に消えるまで塗った回数

グラム数（一本あたり）

100円ショップ：4回

100円ショップ：12ml

スーパー：1回

スーパー：18ml

→一度塗りの時の消費の量が同じとして考えると、量と消費量と値段で比べると100円ショップの修正液のほうがコスパがいい。

### ④スティックのり

100円ショップ…3本入りで一本約**30円**  
スーパー…120円※定価 差…約**90円**  
1本**120円**

使用した商品↓  
(100円ショップ)



～長さの比較～

1. 最大までのばして長さをはかる。

結果…100円ショップ：3.7cm

Pritt : 4.6cm

(スーパー)

☆実験

～粘着力～

1. 紙の一辺にひとめりして紙と紙をひっつける。
2. 一分後ひっついているかどうか確認する。(3回)

結果…100円ショップ：一回目× 一本あたりの量  
 二回目○ 100円ショップ：8g  
 三回目○ Pritt：10g  
 Pritt：すべて○



→長さや量と値段で比べるとコスパは100円ショップのもののほうが良いといえる。

⑤保冷剤

100円ショップ…一個100円

スーパー…購入価格98円 差…ほとんどなし。

☆実験

1. 凍らせた保冷剤を二つとも同じ場所に置いておく。
2. 30分ごとに様子を見てどちらが早く溶けきるか比べる。

結果…100円ショップのものもスーパーのものも同じ。

⑥ネームペン

100円ショップ…一本**100円**

スーパー…一本**150円** (税抜き) ※定価 差…**50円**

☆実験

～インクの持ちを比べる～

1. 100円ショップとスーパーのものとの2つのペンをテープでくっつける。
2. B5用紙の端から端まで同じ長さで線を引いていく。(B5用紙は縦25.7cmだが自分の定規ではかると25.6cmになったため、それに合わせた。)(筆圧が片方のペンに偏らないように持ち方を交互にした。)

→しかし、あまりに時間がかかりすぎるため途中で方法をかえた。

1. 紙テープ(18mm×25m)を用意し、ハンガーで台を作る。
2. 紙テープを引きながら線を引いていく。

結果…

↓B5用紙



↓紙テープ



両方とも約93mで  
かすれ始めた



100円ショップ終了：約460m

スーパー終了：約585m

⇒かすれはじめはほぼ同じ。

⇒完全にインクが無くなるまでの長さで言うと、100円ショップのほうがコスパが良い。

#### IV まとめ

##### ～絆創膏～

防水性という面ではどちらもすぐれていた。しかし、機能的な面でみると圧倒的に薬局の方がすぐれている。

→機能性は数値で比べられなかったため、人によって安さと機能性のどちらをとるかでどちらがコスパが良いと感じるかは異なると思う。

##### ～油吸収パット～

吸収量でのコスパは100円ショップのほうがよかった。しかし、吸収の効率を考えるとスーパーの方があつという間に吸い込んでいたため良い。

→安さと吸収の効率、どちらを選ぶかによってコスパの良し悪しは異なる。

##### ～修正液～

量と安さで比べると100円ショップのほうがコスパが良かった。しかし、機能的な面では100円ショップのものは手間がかかってしまううえ、あまりきれいに仕上がらない。

→安さを選ぶか、機能性を選ぶかによってコスパはことなる。

##### ～スティックのり～

100円ショップのものは一回目には付かなかったが、二回目三回目ではついたのでスティックのりに関しては100円ショップを選ぶといいように思う。

##### ～保冷剤～

値段通りの結果。保冷剤はどこで買っても値段も機能もかわらないと思う。

##### ～ネームペン～

インクが完全になくなるのはスーパーの物の方が長かったが、かすれ始めが同じだから、実際に使うとすればかすれるともう使えない場合が多いので、それなら100円ショップのものを選んだ方がよいと思う。

⇒これらの結果から、人によってコスパを選ぶ基準は違うため試してみて自分がいいと思うものを使うべきであることがわかった。ただ、安さを重視する場合は100円ショップのものを選んだ方がよい場合がおおい。

#### V 感想

気になっていたことが実際に検証できてよかった。この研究の結果を受けてこれからいろいろな100円ショップの商品を使ってみて自分にとってコスパの良いものを選んでいけるようにしたい。また、今回の実験で今まで特に意識していなかった視点でも比べることができたため、これから日常でも新しい視点を意識していこうと思った。

#### VI 参考文献

「2013 100円ショップのしくみと経営戦略 ―ダイソー、キャンドゥ、セリア、ワッツを例に―」（2013, 藤津ゆか）

<http://koichinakagawa.web.fc2.com/studentessay/fujitsu.pdf>